



研究用試薬

**ヒストファイン**

アルカリフォスファターゼ基質キット

**ニューフクシン基質キット**

ニューフクシン溶液 (試薬A)

活性化剤 (試薬B)

基質緩衝液 (試薬C)

基質溶液 (試薬D)

包装：2000テスト

Code：415161

製造販売元

**株式会社ニチレイバイオサイエンス**

〒104-8402

東京都中央区築地6-19-20

TEL.03(3248)2208 FAX.03(3248)2243

## 1. 内容

アルカリフォスファターゼ基質キット・・・ニューフクシン基質キットは4種類の試薬から構成される。  
液状。

ニューフクシン溶液 (試薬A)・・・6mL×1本

活性化剤 (試薬B)・・・6mL×1本

基質緩衝液 (試薬C)・・・12mL×1本

基質溶液 (試薬D)・・・6mL×1本

## 2. 使用目的

アルカリフォスファターゼの発色。

この基質はアルカリフォスファターゼと反応すると不溶性の赤色沈殿を生じる。

## 3. 基質・色素混合液の調製

ニューフクシン溶液 (試薬A) 1滴 (50 $\mu$ L) と活性化剤 (試薬B) 1滴 (50 $\mu$ L) をよく混合し、そこへ精製水  
2mLを加える。次に基質緩衝液 (試薬C) 2滴 (100 $\mu$ L) を加え再び混合し、さらに基質溶液 (試薬D) 1滴 (50  
 $\mu$ L) を加えよく混合する。30分以内に使用する。

## 4. 使用方法

酵素試薬の添加、反応、洗浄の後、スライド上の組織切片が完全に被われるように、基質・色素混合液1-2滴を  
滴下し、常温で5-20分、または発色反応を促進するために37 $^{\circ}$ Cでインキュベートする。発色の状態は顕微鏡で  
確認する。発色反応が十分に行われたら水洗し、反応を止める。組織切片上に沈着した赤色色素は有機溶媒に  
難溶性であるが、アルコールの使用で若干の退色が見られるので、ヒストファイン グリセロールビニルアル  
コール水溶性封入剤または水溶性永久封入剤で封入するか、乾燥による脱水の後、キシレンに数秒間浸して透  
徹し、非水溶性封入剤で封入して永久標本とする。

## 5. 貯法

2-8 $^{\circ}$ Cで保存。

研究用としてのみ使用すること。